

# 包商銀接收 中小銀にダメージ

日本総合研究所 関辰一

## 中国を読む

中国の金融監督当局は5月24日、20年ぶりに銀行を接收した。中堅銀行の包商銀行である。同行の支店が集中する内モンゴル自治区で景気が失速したことが、同行の経営悪化につながった。性急なデレバレッジ（与信や債務の抑制）政策は、他の内地地域の経済や銀行経営にも想定以上のダメージを与えた。政府はさまざまな手法によって銀行破綻を防ぐ構えである。もっとも対応が遅れば、中国経済が大きく下振れる恐れもある。

### 債務抑制政策が発端

中国人民銀行（中央銀行）と中国銀行保険監督管理委員会（銀保監会）は、2019年5月24日から20年5月23日まで、内モンゴル自治区を本拠地とする包商銀行を管理下に置くと発表した。その上で、同行の経営を5大銀行の一つである中国建設銀行に委託する。包商銀行は民間企業や個人向け融資が多い民営銀行である。16年末の総資産は4316億元（約6兆7502億円）、融資残高は1565億元で、中堅銀行という位置付けである。



支店  
（ブルームバーグ）  
北京市内にある包商銀行の

今回の措置の狙いは預金者や債権者の保護、および金融システム不安の回避である。人民銀行、銀保監会と預金保険基金が包商銀行の個人預金の元利を全額保証するとともに、預金受け入れと引き出し業務を通常通り行うという。個人向け銀行理財商品の元利も100%保証する。法人の預金や他の債権も、5000万元以下の場合には元利を全額保証、5000万元超の場合は金融監督当局と債権者が協議した上で最低80%を保証する。

これは、1998年の海南発展銀行以来の銀行接收である。当時、金融監督当局は不良債権問題の深刻化に伴い、公的資金の注入や不良債権処理などの対応を余儀なくされた。海南発展銀行は多額の不良債権を抱えたことから、事業の停止と清算を命

じられた。国家権力が強制的に経営権を取り上げる接收は、中国においてもめったにない。

包商銀行の経営悪化が表面化したのは2017年頃からである。そのころ、不良債権比率の高まりなどを理由に、格付けが引き下げられた。

この主因は、デレバレッジ政策を発端とする内モンゴル自治区の景気失速とみられる。同自治区では厳しい投資抑制やシャドーバンキング（影の銀行）抑制が実施され、17年8月以降、地下鉄や空港、高速道路など数多くのインフラプロジェクトが停止となった。この結果、かつて2桁の伸びを保っていた固定資産投資は17、18年の2年間減少を続けた。実質成長率は16年の7.2%から17年には4.0%へ急低下し、18年も5.3%と回復が



せき・しんいち 2006年早大大学院経済学研究科修士課程修了。08年日本総合研究所入社、15年から調査部副主任研究員。拓殖大学博士（国際開発）。専門分野は中国経済。著書に「中国経済成長の罫」。37歳。中国上海出身。

鈍い。融資先の収益悪化は、包商銀行の経営に大きな重しとなったといえよう。

実際、融資残高の7割は同自治区内向けである。卸小売業、製造業、鉱業、不動産業など幅広い業種で融資を行っている。同行の不良債権比率は1.7%と発表されている。もっとも、これは実態を反映していないと思われる。中国では、本来不良債権として計上すべき貸出債権を問題のない債権とみなすケースが少なからずみられる。

加えて、個人や企業から預金を集める力が乏しいため、融資資金をコストの高い銀行間市場などで調達せざるを得ないことも要因の一つである。16年末の総債務4018億元のうち預金は1936億元、銀行間市場での調達は716億元であった。18年9月末には銀行間市場での調達が総債務の5割に達したとされる。

### 対応遅れれば下振れ

もっとも、性急なデレバレッジ政策の影響で景気が失速して

いるのは内モンゴルだけではない。例えば、天津市の実質成長率もここ3年間は9.1%、3.6%、3.6%と急低下した。吉林省も6.9%、5.3%、4.5%と状況は厳しい。これらの地域で事業展開する銀行も、融資先の収益悪化に直面しているとみられる。包商銀行と同様に、預金が集まらず、銀行間市場などで資金調達する中小銀行も少なくない。

当局は今年6月2日、包商銀行接收の背景説明に加えて、全国の中小銀行の預金準備率を同月17日に引き下げることを改めて表明した。これにより約1000億元の資金が金融システムに供給され、中小銀行の流動性の安定化に結びつくと期待される。また、地方政府は経営破綻懸念のある銀行へ公的資金を投入する構えである。政府の対応が遅れれば、金融システム不安によって中国経済が大きく下振れる恐れもある。引き続き、中国の金融セクターの動向は要注意である。